

故號其國曰日向也、

〔倭訓栞前編二十五〕ひうが 日本紀に日向をよめり、和名抄にひむがとも見えたり、朝日直刺夕

日日照國なるよしも紀に見えたり、凡て神代は、皆日向の國に都たたまへり、景行天皇も、行宮は

高屋宮といふ、神代紀に筑紫日向小戸橋之櫛原と見えて、日向の名初て出たり、されど此事蹟筑

前にありて、日向ならざる事、松平氏貝原氏などの説にくはしく見えて、日向を九國の總名など

いへり、今文意を詳に考れば、日向の小戸は橋之櫛原に對して、日向も橋も所謂枕詞也、日向は日

に向ふ所をいふ也、一國の名にあらず、もとよりひむきとよむべし、

〔地勢提要〕各國經緯度附里程

日向高鍋十日 極高三十二度七分半、經度西四度七分半、從小倉經香春島而 七十八里二十七町、

三百六十一里三十五町三間半東都

日向飢肥本町 極高三十一度三十七分半、經度西四度一十七分、從小倉經高鍋沿海 一百二里一十一町、

三百八十五里一十九町一十四間東都

〔日本經緯度實測〕北極出地

日向 延岡 三二度三四分三〇秒 佐土原 三二度〇三分〇〇秒

高 三二度〇七分〇〇秒 飢肥 三一度三七分三〇秒略中

東西里差

山城 京 〇度〇〇分〇〇秒略中 日向 延岡 西四度〇〇分五〇秒

〔萬國夢物語下〕岡佐賀關ナド見過テ、南日向ニ至、東ハ海濱、南ハ大隅、西ハ肥後也、氣候暖國也、北極

出地卅一二度成ベシ、

〔日本地誌提要日七十一〕疆域 東南海ニ臨ミ、西ハ肥後、大隅、薩摩、北ハ肥後、豊後ニ至ル、東西凡壹

疆域

位置